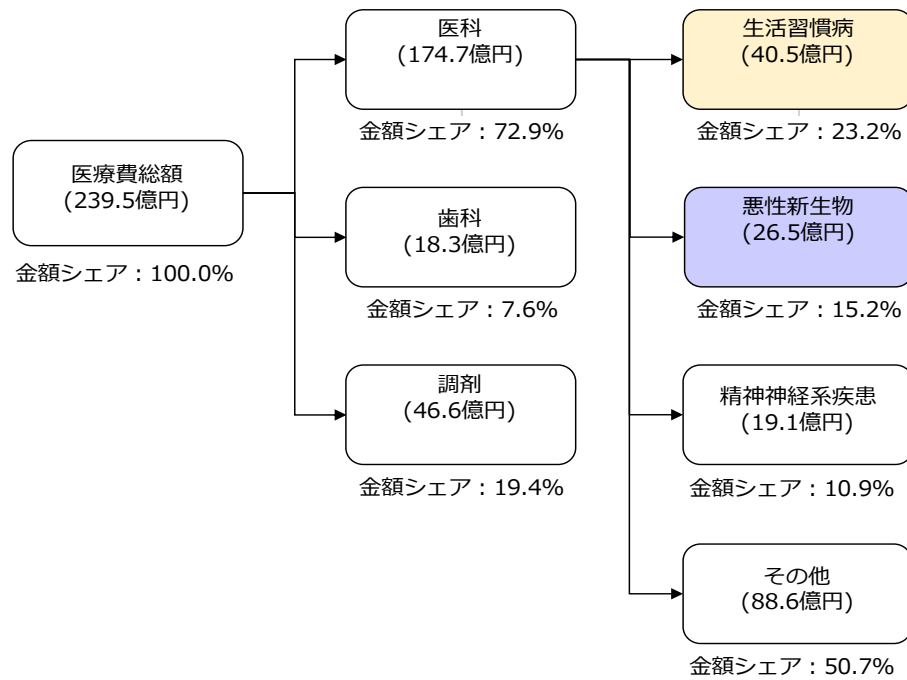


1 医療費の状況

(1) 医療費の構成

明石市国保の1年間の医療費は総額で239.5億円となっており、内訳は医科が174.7億円、歯科が18.3億円、調剤が46.6億円となっています。さらに、医科の内訳は、生活習慣病が40.5億円、悪性新生物26.5億円、精神疾患19.1億円となっています。生活習慣病では高血圧性疾患が9.4億円と最も多く、次いで脳血管疾患8.8億円となっています。悪性新生物では、気管、気管支及び肺の悪性新生物が4.3億円、結腸及び直腸の悪性新生物が3.5億円となっています。(図表1)

【図表1 医療費の構成 (平成28年度)】



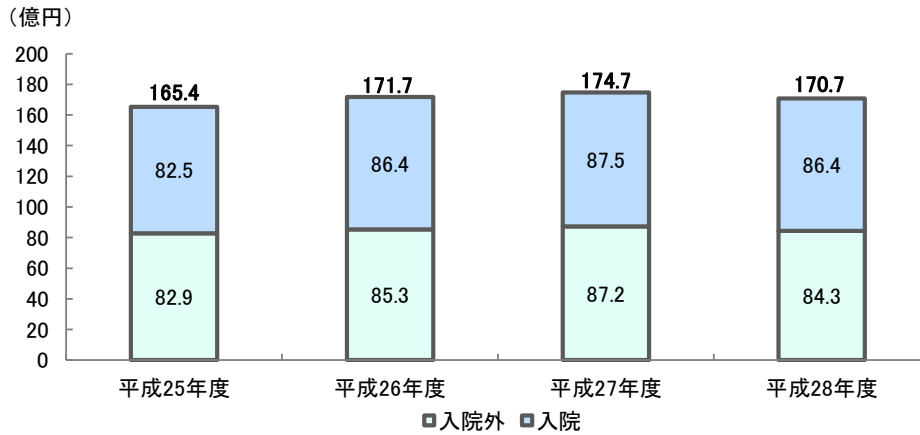
生活習慣病 40.5億円 23.2%	高血圧性疾患	9.4億円	23.1%	悪性新生物 26.5億円 15.2%	気管、気管支及び肺の悪性新生物	4.3億円	16.2%
	脳血管疾患	8.8億円	21.7%		結腸および直腸の悪性新生物	3.5億円	13.1%
	糖尿病	7.0億円	17.3%		胃の悪性新生物	2.4億円	9.0%
	腎不全	5.4億円	13.2%		乳房の悪性新生物	2.2億円	8.3%
	虚血性心疾患	4.6億円	11.3%		肝および肝内胆管の悪性新生物	1.7億円	6.6%
	脂質異常症	3.2億円	7.9%		前立腺の悪性新生物	1.6億円	6.0%
	動脈疾患	0.9億円	2.2%		すい臓の悪性新生物	0.9億円	3.4%
	肝疾患	0.7億円	1.8%		子宮の悪性新生物	0.6億円	2.1%
	COPD	0.3億円	0.7%		その他	9.3億円	35.2%
	高尿酸血症および痛風	0.3億円	0.7%				

資料：レセプトデータ (平成28年度)

(2) 医療費（入院・入院外）の状況

医療費（入院・入院外）の推移をみると、年々増加傾向にあります。平成26年度以降は170億円を超えている状況が続いており、入院は件数が少ないですが全体の50%以上を占めています。（図表2）

【図表2 医療費（入院・入院外）の推移】

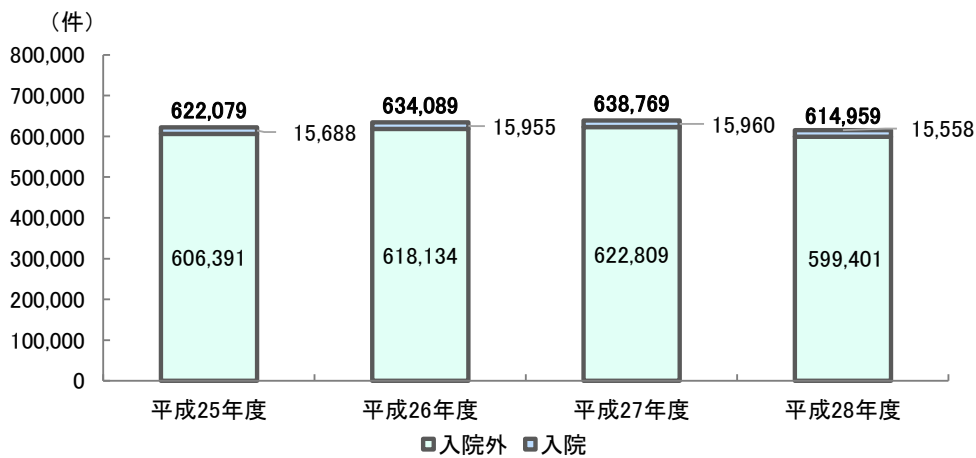


資料：レセプトデータ

(3) レセプト件数の状況

レセプト件数（入院・入院外）の推移をみると、全体の97%以上を入院外が占めており、入院は全体の2.5%となっています。（図表3）

【図表3 レセプト件数（入院・入院外）の推移】

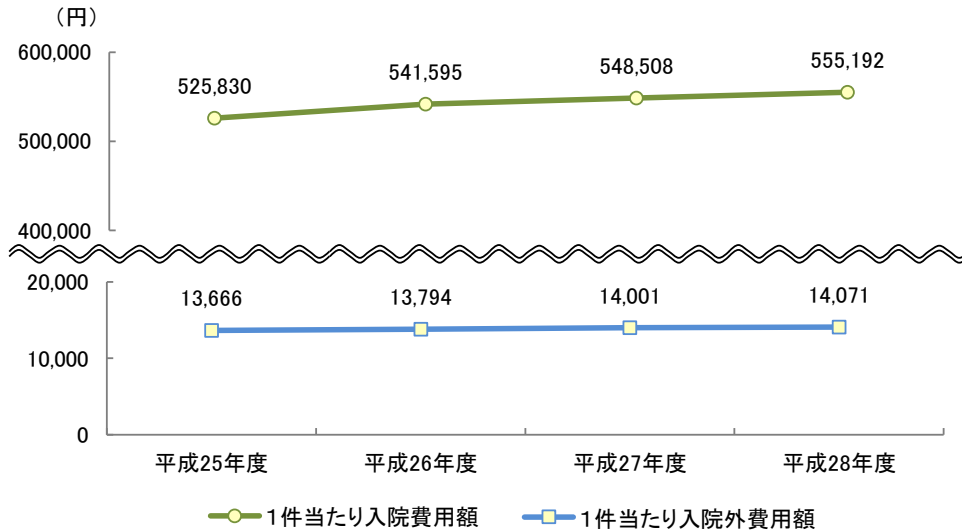


資料：レセプトデータ

(4) 1件当たり医療費の状況

1件当たり医療費は、入院・入院外ともに伸びており、平成28年度では入院外14,071円に対し、入院ではその40倍近い555,192円となっています。(図表4)

【図表4 1件当たり医療費の推移】

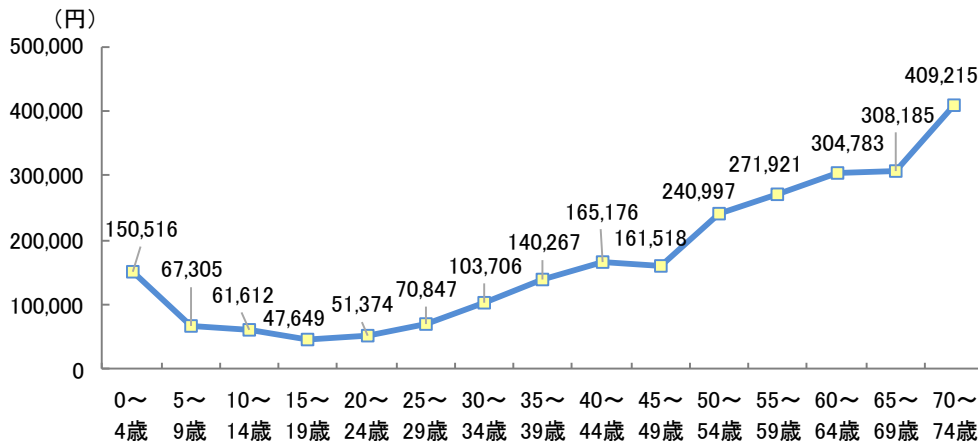


資料：レセプトデータ

(5) 1人当たり医療費の状況

年代別国保加入者1人当たり医療費をみると、15歳以上の医療費は年齢が上がるごとに増加しています。45歳～49歳まではゆるやかに伸びていますが、50歳以降に伸び率が高くなり、医療費は20万円を超え、さらに70歳から74歳では40万円を超えています。(図表5)

【図表5 年代別1人当たり年間医療費】



資料：レセプトデータ (平成28年度)

(6) 疾病別の医療費

入院・入院外で疾病毎の医療費をみると、入院では統合失調症、脳梗塞、不整脈の順で高くなっており、次いで骨折、関節疾患となっています。入院外では、糖尿病、高血圧症が上位となっています。(図表6)

【図表6 疾病別医療費(上位5位)】

	入院		入院外	
	疾病	医療費(千円)	疾病	医療費(千円)
1	統合失調症	829,109	糖尿病	1,125,306
2	脳梗塞	363,896	高血圧症	1,007,486
3	不整脈	312,519	慢性腎不全(透析あり)	668,598
4	骨折	312,290	脂質異常症	654,208
5	関節疾患	298,762	関節疾患	536,792

資料：KDBシステム(平成28年度)

(7) 入院における生活習慣病の状況(40歳以上)

40歳以上の入院における生活習慣病をみると、悪性新生物の件数が最も多く、次いで脳梗塞、狭心症となっています。1件当たり医療費については、心筋梗塞が最も高く、次いで狭心症、脳出血となっています。(図表7)

【図表7 疾病別件数・医療費(入院・40歳以上)】

疾病名	件数		医療費		1件あたり 医療費(円)	
	(件)	構成比(%)	(千円)	構成比(%)		
生活習慣病	悪性新生物	2,024	14.5	1,480,142	18.6	731,295
	脳梗塞	529	3.8	362,987	4.6	686,175
	狭心症	318	2.3	263,453	3.3	828,470
	糖尿病	246	1.8	93,730	1.2	381,016
	脳出血	169	1.2	133,126	1.7	787,727
	高血圧症	99	0.7	25,505	0.3	257,622
	心筋梗塞	45	0.3	75,103	0.9	1,668,953
	動脈硬化症	26	0.2	17,488	0.2	672,618
	脂質異常症	25	0.2	6,318	0.1	252,717
	脂肪肝	11	0.1	2,361	0.0	214,669
	高尿酸血症	1	0.0	115	0.0	115,010
	生活習慣病計	3,493	25.0	2,460,327	30.9	704,359
その他の疾患	10,485	75.0	5,500,423	69.1	524,599	

資料：KDBシステム(平成28年度)

(8) 入院外における生活習慣病の状況（40歳以上）

40歳以上の入院外における生活習慣病をみると、高血圧症の件数が最も多く、次いで脂質異常症、糖尿病となっています。1件当たり医療費については、悪性新生物が最も高く、次いで動脈硬化症、糖尿病となっています。（図表8）

【図表8 疾病別件数・医療費（入院外・40歳以上）】

疾病名	件数		医療費		1件あたり 医療費(円)	
	(件)	構成比(%)	(千円)	構成比(%)		
生活 習 慣 病	高血圧症	67,781	13.0	1,001,655	8.5	14,778
	脂質異常症	43,360	8.3	649,052	5.5	14,969
	糖尿病	38,632	7.4	1,088,706	9.3	28,181
	悪性新生物	17,624	3.4	1,358,763	11.6	77,097
	狭心症	4,645	0.9	105,634	0.9	22,742
	脳梗塞	3,692	0.7	87,014	0.7	23,568
	脂肪肝	1,000	0.2	20,084	0.2	20,084
	高尿酸血症	796	0.2	8,801	0.1	11,057
	動脈硬化症	637	0.1	22,599	0.2	35,477
	心筋梗塞	333	0.1	8,878	0.1	26,660
	脳出血	135	0.0	3,640	0.0	26,963
生活習慣病計	178,635	34.3	4,354,827	37.1	24,378	
その他の疾患	341,890	65.7	7,383,116	62.9	21,595	

資料：レセプトデータ（平成28年度）

(9) 悪性新生物の状況

悪性新生物の医療費を整理すると、男性では、「気管、気管支及び肺」、女性では「乳房」の悪性新生物が最も高くなっています。また、男女ともに「結腸及び直腸」「胃」が高くなっています。（図表9）

【図表9 悪性新生物の医療費及び患者一人当たり医療費】

	疾病分類名	医療費(千円)	患者一人当たり 医療費(円)
男性	気管、気管支及び肺	296,911	858,123
	結腸および直腸	195,631	389,704
	前立腺	149,168	320,792
	胃	122,128	299,333
	肝および肝内胆管	94,848	611,921
	食道	77,406	910,654
	その他	486,124	
女性	乳房	213,354	294,688
	結腸および直腸	129,673	280,071
	気管、気管支及び肺	106,411	384,156
	胃	90,938	203,441
	その他の部位	48,043	1,091,878
	卵巣	44,378	806,868
	その他	440,668	

資料：レセプトデータ（平成28年度）

2 特定健康診査の状況

(1) 特定健診の受診状況

特定健診の受診率は増加傾向にあり、平成28年度は28.0%となっています。(図表10)

【図表10 特定健診受診率の推移】

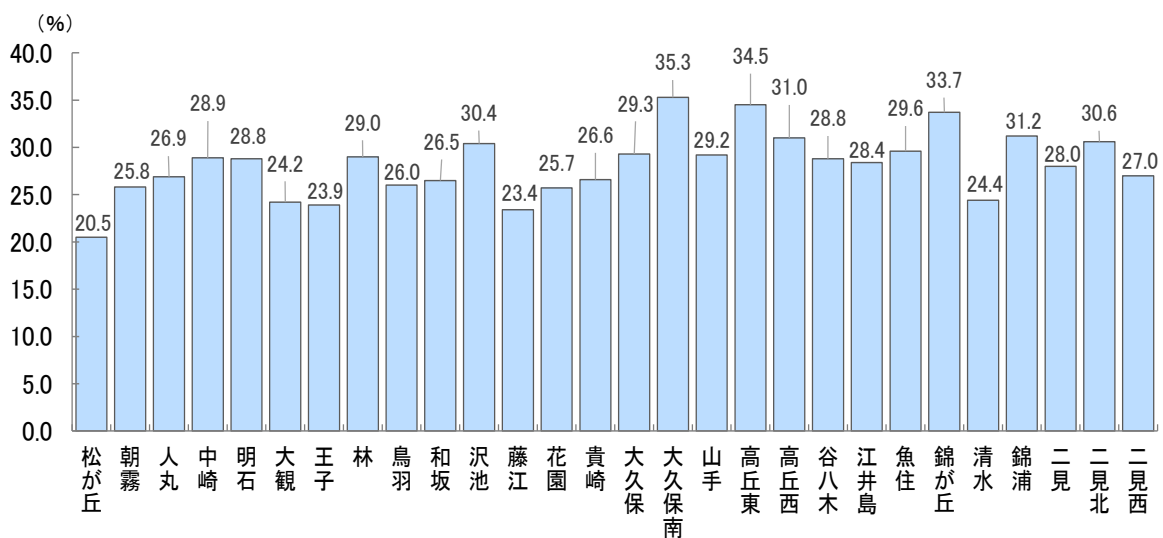
	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
受診者数(人)	11,112	12,001	12,747	12,606	12,791
受診率(%)	23.4	24.9	26.3	26.6	28.0

資料：特定健診等実施状況(法定報告)

(2) 小学校区別特定健診受診率

特定健診の受診率を小学校区別にみると、大久保南、高丘東、錦が丘で高く33%を超えています。一方で松が丘では20.5%と最も低く、藤江、王子、大観、清水も25%未満と低い状況です。(図表11)

【図表11 小学校区別特定健診受診率】

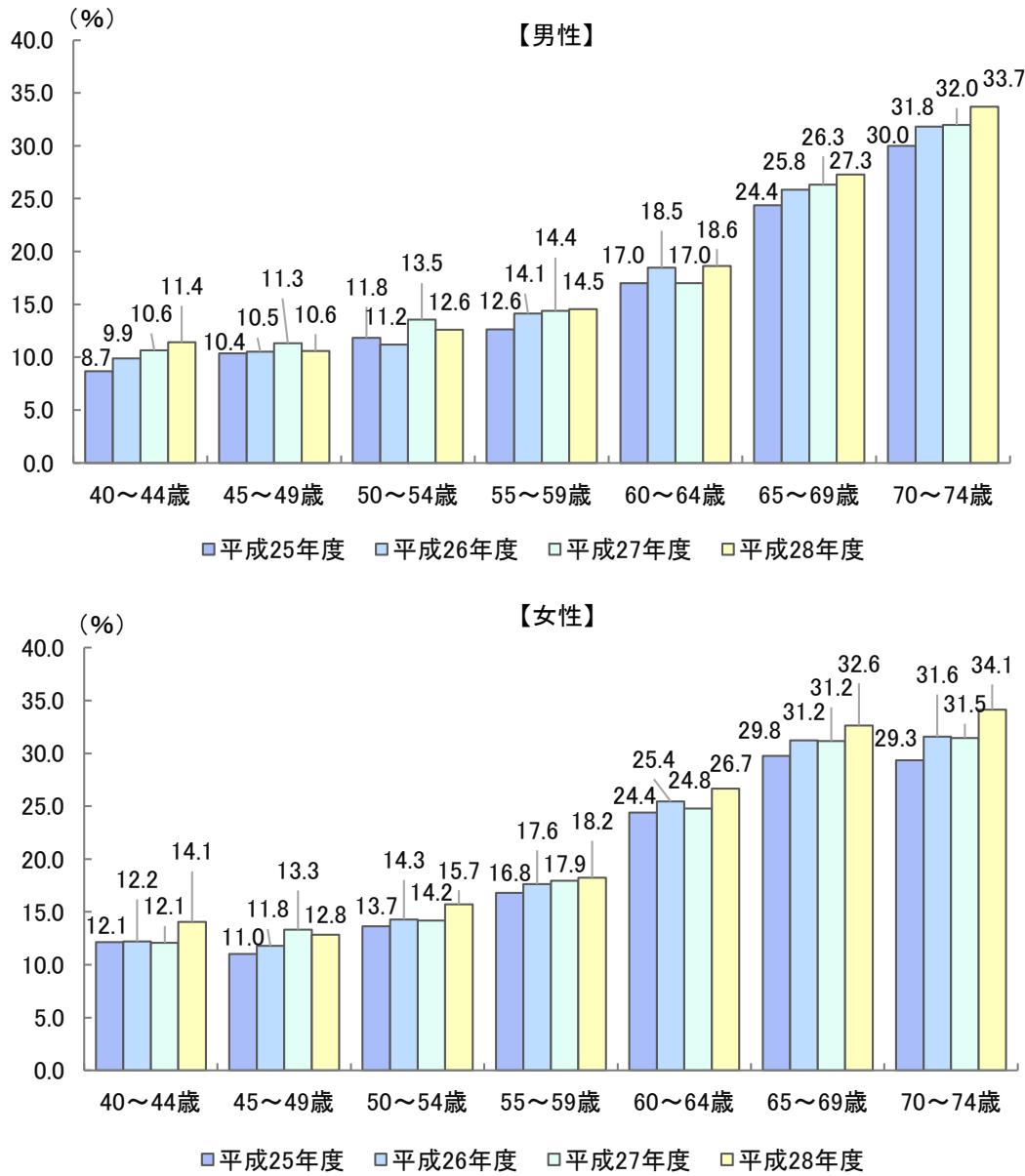


資料：特定健診データ(平成28年度)

(3) 年代別性別特定健診受診率推移

年代別の特定健診受診率は、年齢が高くなるほど受診率が高い傾向にあり、男性と女性では女性の方が高い傾向にあります。(図表12)

【図表12 年代別性別特定健診受診率推移】

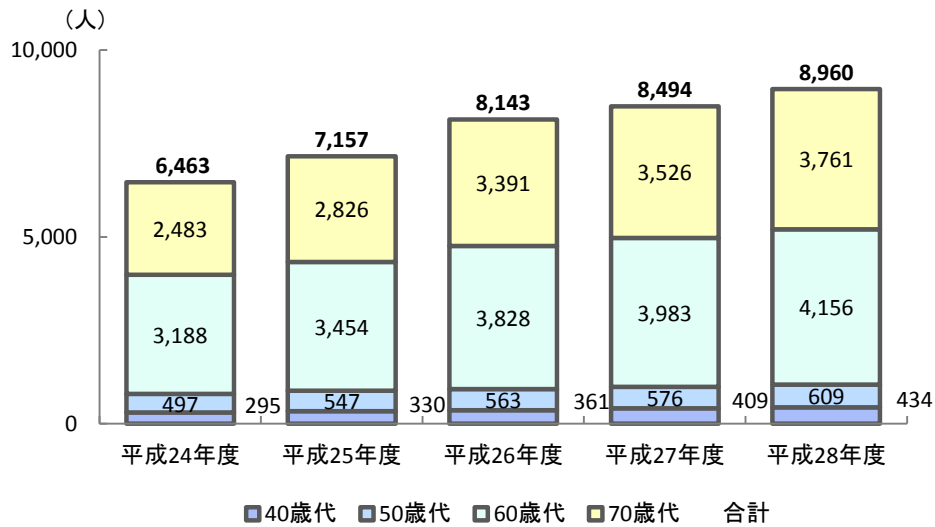


資料：KDBシステム（平成28年度）

(4) 継続受診者の状況

特定健診を2年連続で受診した人数は、全ての年代で、平成24年度以降増加しています。
(図表13)

【図表13 特定健診2年連続受診者の推移】



資料：特定健診データ

(5) 特定健診受診有無と医療機関受診有無

特定健診対象者を特定健診受診の有無と医療機関への受診の有無で分類したところ、特定健診は受診していないが医療機関へは何らかの理由で受診している者の割合が一番高い結果となりました。また、特定健診受診も医療機関受診もない者が全体の15.5%存在しています。
(図表14)

【図表14 特定健診受診有無と医療機関受診有無】

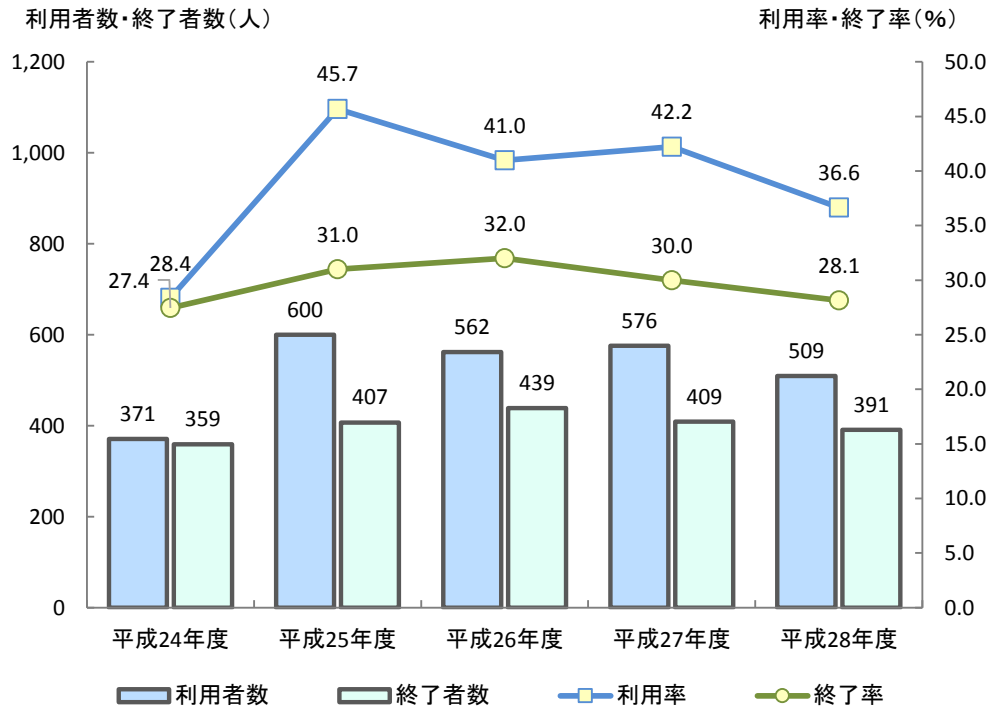
		特定健診受診	
		あり	なし
医療機関受診	あり	24.6%	58.3%
	なし	1.6%	15.5%

資料：特定健診データ、レセプトデータ（平成28年度）

3 特定保健指導の状況

特定保健指導の実施状況について、利用率は平成25年度以降低下傾向にあります。また、終了率については30%前後で推移しており、平成28年度では28.1%という状況です。(図表15)

【図表15 特定保健指導の実施状況】



資料：特定健診等実施状況（法定報告）